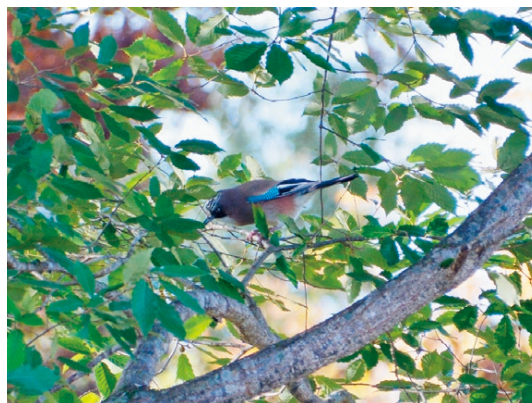


カケス (学名: *Garrulus glandarius*)

【スズメ目カラス科】



▲ 綿毛が残るカケスの若鳥



▲ ドングリを探すカケス

森の中を歩いていると、「ギャーギャー」と大声で鳴く鳥に出会うことがあります。枝から飛び立ち、ゆっくりとした動作で飛んでいきますが、ぱっと開いた翼の白黒青のコントラストが鮮やかで印象的です。このような目立つ姿のカケスはしばしば猛禽類に襲われて命を落とすことがあります。森の中に散乱した羽根に鮮やかな青い羽根が混ざっていると、それはカケスが食べられた跡です。

カケスは、全長33cmほどで、北海道から四国、九州まで生息しています。只見町では一年中見られ、集落のそばから標高の高い山地にまで生息していますが、山地の個体は冬には低地まで下りてくると考えられます。そのため、とりわけ秋はよく目にし、早春にも小さな群で移動する姿を見ることができます。秋のカケスは、コナラやミズナラの木に実ったドングリを次々と飲み込み、のどに貯め込んだ状態で飛んで移動します。運ばれたドングリは、食物がとれない冬に備えて、木の隙間や落ち葉の下に蓄えられます。カラスの仲間以利口なカケスですが、折角隠したドングリを回収し忘れることがあり、発芽できる状態のドングリは翌春芽を出します。つまり、カケスは、ナラ類のような樹木が作る種子を遠くに運ぶ役割を果たすことになるのです。

※台風の影響により開催を延期していたブナセンター講座「地層からひもとく只見の自然」は、下記の日時で改めて開催いたします。(入場無料 ※入館料が必要です)

・2019年11月16日(土) 13:30~15:30 (「ただみ・ブナと川のミュージアム」セミナー室)

野鳥観察会「只見町の秋の鳥～渡ってくる鳥・去る鳥」を開催

9月28日、ブナセンター主催の上記野鳥観察会を開催しました。「ただみ・ブナと川のミュージアム」を出発し、「水の郷只見川公園」内や只見川沿いを徒歩で移動し、渡り途中のヒヨドリやヨシの茂みに作られたオオヨシキリの巣、越冬のために渡ってきたキンクロハジロなどを観察した他、ブナセンター指導員がナラ枯れについての解説を行いました。双眼鏡を使うのは初めてという人も使い方を覚え、皆さんに只見の秋の自然を満喫していただきました。



▲ 野鳥を探す参加者